



阿賀野市立京ヶ瀬中学校

〒959-2123
阿賀野市姥ヶ橋 739
Tel. 0250-67-2004
2024-5号
令和6年6月11日発行

～ <http://kyogase-jhs.agano.ed.jp/> ～

京ヶ瀬中学校

「いじめ見逃しゼロ」に向けて

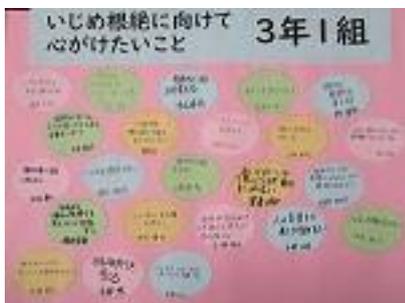
当校では年間を通じ、生徒会が主体となって「オレンジリボン活動」を行っています。これは「いじめをしない、見逃さない」という意識を向上させるための取組です。この他にも、11月22日(金)に実施予定の「いじめ見逃しゼロスクール集会」に向けて学級活動、道徳などの授業と関連付けながら活動を推進しています。



今年度はこれらの取組の第一歩として、5月17日(金)にPTA講演会「親子で学ぶ『命の大切さを学ぶ教室及びいじめ防止教室』」を実施しました。新潟県警察本部より講師をお招きし、ご講話いただきました。前半の「いじめ防止教室」では、いじめ防止対策推進法、いじめの四層構造、いじめによる逮捕者がいる等のお話がありました。後半の「命の大切さを学ぶ教室」では、暴行事件の被害家族が書かれた手記を、講師から朗読していただきました。講演会後の生徒アンケートの記述を一部紹介します。 ※5月17日(金)のPTA講演会の様子は、本日の新潟日報に掲載されています

- いじめは犯罪になり、被害者を一生立ち直れなくさせる凶器だということを改めて実感した。被害者の気持ちを一緒になって考えている時に、言葉を左右する表情や声のトーンも大切だと思った。日頃から「いじめをしない」「見て見ぬふりをしない」ようにしたい。 <1年1組生徒>
- 改めて、いじめというのは、いけないことだなと思った。いじめた方は忘れて何も思わなかったとしても、いじめられた方は一生忘れることなく悲しい気持ちを抱えることになるので、いじめられている人がいたら、その人の役に立ちたいと思う。まず、いじめが起きない、仲良しで明るい環境を作っていきたい。 <1年2組生徒>
- 普段、思っていないくても、私の言葉が誰かを傷つけているかもしれないと思ったので、もう一度、言葉一つ一つを発言する前に確認し、相手を傷つけないように会話したい。 <2年1組生徒>
- 最初は他人事のように聞いていたけれど、手記を聞いていくうちに、切なさや悲しみが伝わった。被害者にはずっと消えない怒りや悲しさが残り、切ないと思った。加害者も被害者もお互いに切なさが残るので、命を粗末にしてはいけないと思った。絶対にいじめはダメだと思った。 <2年2組生徒>
- 犯罪行為やいじめで人が死ぬことがあるかもしれないということは知っていたけれど、実際に起きたら積極的に止められるのか。難しいことだと思うので、今日の講話を聞いて、日頃から「見て見ぬふりをしない」トレーニングをしたいと思った。 <2年3組生徒>
- 今日の講話を聞いて、日々生活できていることは、当たり前ではないのだと改めて思った。一人で抱え込まず誰かに相談することが大切だと気付いた。見て見ぬふりをしないと決めた。 <3年1組生徒>
- 改めて、いじめはしてはいけないと分かった。もしいじめられていると相談されたら、相手の気持ちを思いやって、無理に励ましたりせず、相手に寄り添いたいと思った。相手の気持ちを考えて、嫌がられることはしないで生活していきたい。 <3年2組生徒>

講演会后、教室で「京ヶ瀬中学校いじめ防止基本方針」の読み合わせを行い、いじめ根絶に向けて心掛けたいことを一人一人がカードに記入しました(全校生徒の意見から一部を紹介します)。



- ・気持ちの伝わり方を意識して生活する
- ・いじめを見たら、近くの大人に言う
- ・相手が嫌な気持ちになることは絶対に言わない
- ・いじめをしないために、色々な人と仲良くする
- ・誤解が生じないような思いやりのある言葉を使う
- ・いじめられている人がいたら、話を聞く
- ・何かを言う時には、相手が傷つかないかを考えてから言う

